

3. 残存歯と諸因子との関係について

1) 残存歯数と歯科医師数

(1) 歯科医師数と年齢調整残存歯数の相関

男女とも有意な相関はなかった。(男性 $r=0.254$ ($p=0.295$)、女性 $r=-0.125$ ($p=0.610$))

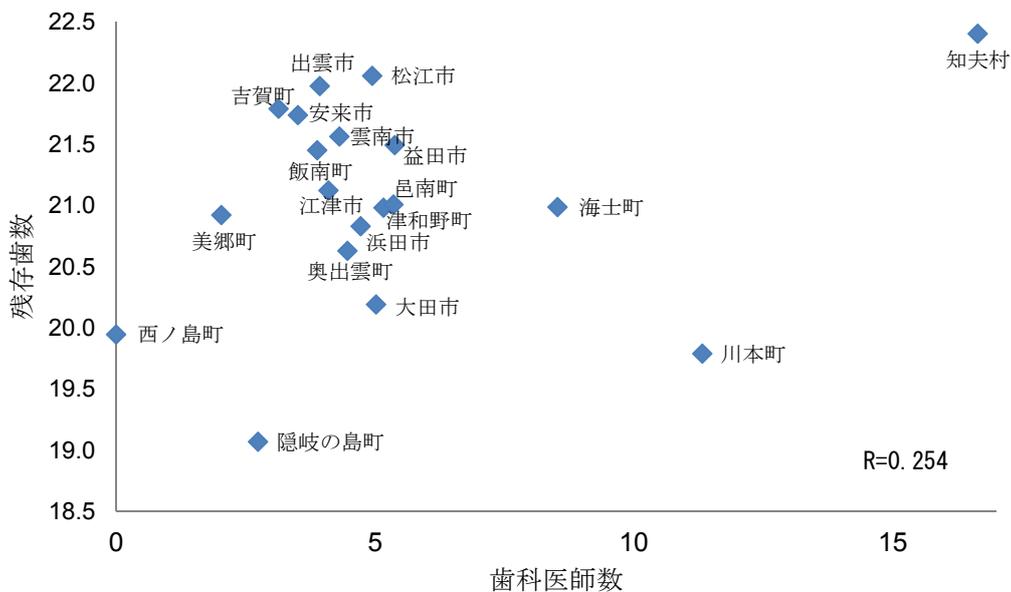


図 21. 年齢調整残存歯数（男性）と人口 10 万対歯科医歯数

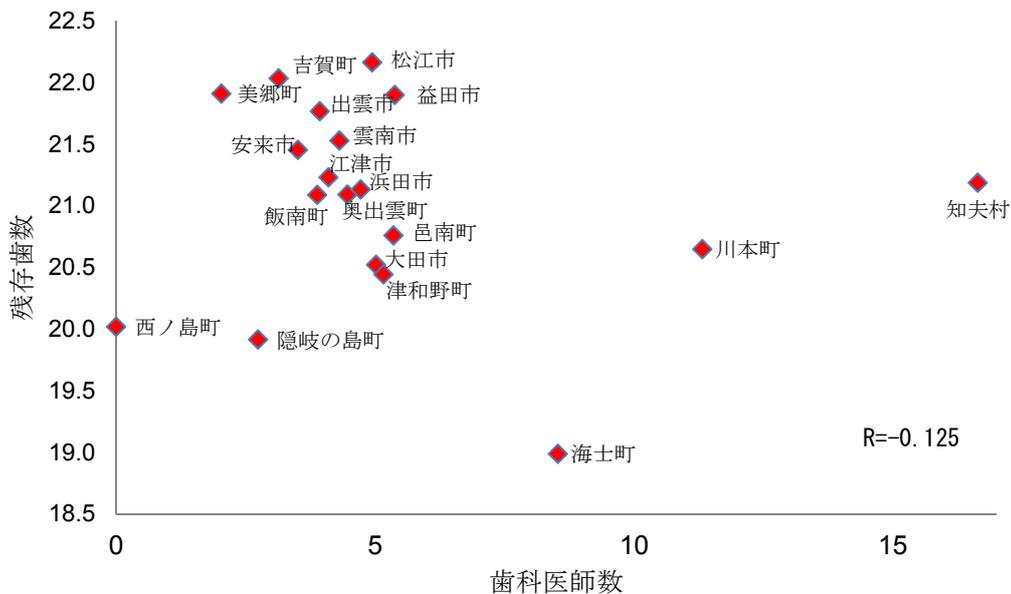


図 22. 年齢調整残存歯数（女性）と人口 10 万対歯科医歯数

※歯科医師数: 歯科医師会会員 (診療に従事している会員のみ)

人口 2014 年島根県市町村別推計人口

2) 残存歯数と糖尿病の関係

(1) 10歳区分階級別糖尿病の有無と一人平均残存歯数

表 25. 10歳区分階級別糖尿病の有無と一人平均残存歯数

総数	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし
30～34歳	8	1,354	227	38,573	28.38	28.49
35～44歳	59	3,762	1,604	105,120	27.19	27.94
45～54歳	163	4,134	3,886	108,866	23.84	26.33
55～64歳	499	6,201	10,778	144,915	21.60	23.37
65～74歳	901	7,316	16,909	146,643	18.77	20.04
75～84歳	795	5,477	12,125	86,396	15.25	15.77
85歳～	196	1,391	2,054	14,811	10.48	10.65
総計	2,621	29,635	47,583	645,324	18.15	21.78

*性別及び糖尿病の有無の不明は除く。

(2) 糖尿病と一人平均残存歯数（男女別）

表 26. 糖尿病と一人平均残存歯数（男性）

男性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし
30～34歳	6	595	170	16,996	28.33	28.56
35～44歳	37	1,626	1,002	45,414	27.08	27.93
45～54歳	119	1,757	2,795	45,667	23.49	25.99
55～64歳	340	2,614	7,451	60,861	21.91	23.28
65～74歳	568	3,130	10,666	61,486	18.78	19.64
75～84歳	443	2,197	6,797	35,665	15.34	16.23
85歳～	86	530	1,078	6,303	12.53	11.89
総計	1,599	12,449	29,959	272,392	18.74	21.88

表 27. 糖尿病と一人平均残存歯数（女性）

女性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし	糖尿病あり	糖尿病なし
30～34歳	2	759	57	21,577	28.50	28.43
35～44歳	22	2,136	602	59,706	27.36	27.95
45～54歳	44	2,377	1,091	63,199	24.80	26.59
55～64歳	159	3,587	3,327	84,054	20.92	23.43
65～74歳	333	4,186	6,243	85,157	18.75	20.34
75～84歳	352	3,280	5,328	50,731	15.14	15.47
85歳～	110	861	976	8,508	8.87	9.88
総計	1,022	17,186	17,624	372,932	17.24	21.70

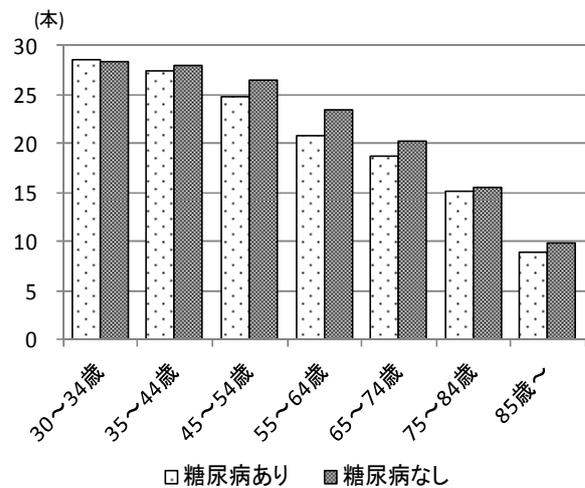
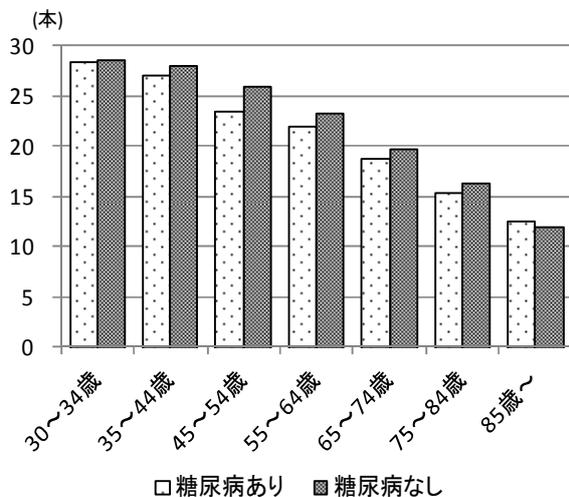


図 23. 糖尿病と一人平均残存歯数 (男性)

図 24. 糖尿病と一人平均残存歯数 (女性)

男女ともにほぼ全ての年齢層で「糖尿病あり」の人の方が残存歯数の少ないことがわかる。特に男性では45~54歳、女性では55~64歳の年齢層で糖尿病の有無による残存歯数は、糖尿病がある人の方が残存歯は2.5本少なく、減少が著しい。

3) 残存歯数と歯周疾患（歯周ポケット測定値4mm以上）との関係

(1) 10歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数

表 28. 10歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数

総数	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり
30~34歳	866	719	24,848	20,449	28.69	28.44
35~44歳	1,880	2,190	53,092	60,788	28.24	27.76
45~54歳	1,555	2,782	41,750	72,329	26.85	26.00
55~64歳	2,106	4,639	51,224	107,370	24.32	23.15
65~74歳	2,381	5,766	49,288	118,204	20.70	20.50
75~84歳	1,683	4,096	28,335	71,387	16.84	17.43
85歳~	323	780	4,220	11,494	13.07	14.74
総計	10,794	20,972	252,757	462,021	23.42	22.03

* 性別及び歯周ポケットの状況の不明は除く。

(2) 歯周疾患(歯周ポケット測定値 4mm 以上)と一人平均残存歯数 (男女別)

表 29. 10 歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数 (男性)

男性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり
30～34歳	306	328	8,785	9,336	28.71	28.46
35～44歳	657	1,051	18,576	29,140	28.27	27.73
45～54歳	573	1,315	15,291	33,693	26.69	25.62
55～64歳	874	2,072	21,308	47,877	24.38	23.11
65～74歳	956	2,665	19,697	54,025	20.60	20.27
75～84歳	636	1,793	11,121	32,054	17.49	17.88
85歳～	126	355	1,746	5,492	13.86	15.47
総計	4,128	9,579	96,524	211,617	23.38	22.09

表 30. 10 歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数 (女性)

女性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり
30～34歳	560	391	16,063	11,113	28.68	28.42
35～44歳	1,223	1,139	34,516	31,648	28.22	27.79
45～54歳	982	1,467	26,459	38,636	26.94	26.34
55～64歳	1,232	2,567	29,916	59,493	24.28	23.18
65～74歳	1,425	3,101	29,591	64,179	20.77	20.70
75～84歳	1,047	2,303	17,214	39,333	16.44	17.08
85歳～	197	425	2,474	6,002	12.56	14.12
総計	6,666	11,393	156,233	250,404	23.44	21.98

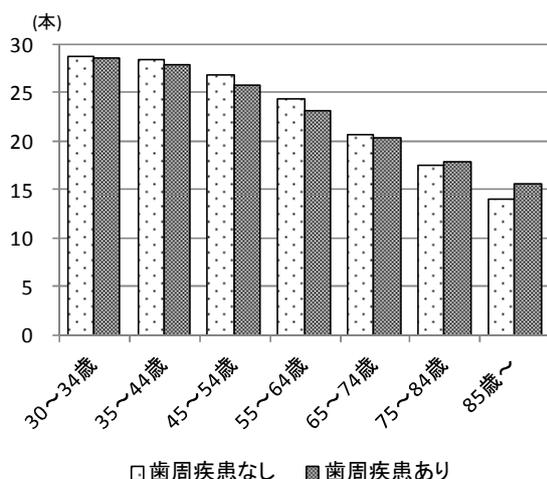


図 25. 10 歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数 (男性)

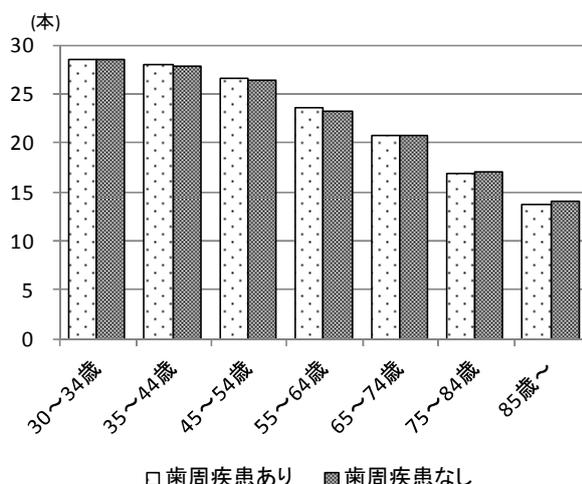


図 26. 10 歳区分階級別歯周疾患の有無と一人平均残存歯数 (女性)

男女ともに 30～74 歳までの年齢層で歯周疾患ありの人の方が、一人平均残存歯が少ない結果となった。

しかし、75 歳を超えると歯周疾患なしの人の方が多くなる。これは単純に歯周疾患で歯を失うというだけでなく、その人のその他全身疾患やむし歯リスクなどの様々な因子が複雑に関わっている可能性も考えられる。

4) 糖尿病と歯周疾患（歯周ポケット測定値 4mm 以上）との関係

(1) 糖尿病の有無と歯周疾患

表 31. 糖尿病の有無と歯周疾患

総数	糖尿病あり		糖尿病なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳	0	8	706	644	1,358
35～44歳	15	44	1,683	2,064	3,806
45～54歳	51	111	1,472	2,639	4,273
55～64歳	137	349	1,909	4,194	6,589
65～74歳	240	616	2,039	5,001	7,896
75～84歳	177	521	1,443	3,452	5,593
85歳～	30	103	280	644	1,057
総計	650	1,752	9,532	18,638	30,572

* 性別及び糖尿病の有無、歯周ポケットの状況の不明、対象歯なしは除く。

(2) 糖尿病の有無と歯周疾患（男女別）

表 32. 糖尿病の有無と歯周疾患（男性）

男性	糖尿病あり		糖尿病なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳		6	288	304	598
35～44歳	10	27	625	996	1658
45～54歳	35	84	526	1,215	1860
55～64歳	96	233	761	1,796	2886
65～74歳	136	406	774	2,191	3507
75～84歳	91	290	523	1,450	
85歳～	14	53	109	282	458
総計	382	1,099	3,606	8,234	13321

表 33. 糖尿病の有無と歯周疾患（女性）

女性	糖尿病あり		糖尿病なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳		2	418	340	760
35～44歳	5	17	1,058	1,068	2148
45～54歳	16	27	946	1,424	2413
55～64歳	41	116	1,148	2,398	3703
65～74歳	104	210	1,265	2,810	4389
75～84歳	86	231	920	2,002	3239
85歳～	16	50	171	362	599
総計	268	653	5,926	10,404	17251

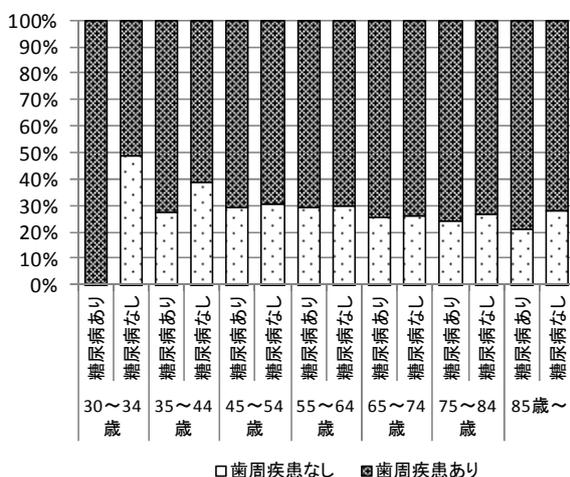


図 27. 糖尿病の有無と歯周疾患（男性）

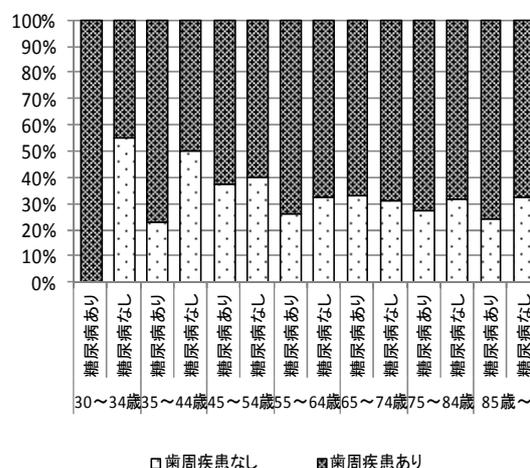


図 28. 糖尿病の有無と歯周疾患（女性）

男女ともほぼ全ての年齢層において糖尿病ありの人の方が歯周疾患にかかっている割合が高く、糖尿病は歯周疾患悪化のリスクファクターと言える。

5) 残存歯数と喫煙の関係

(1) 喫煙の有無と一人平均残存歯数

表 34. 喫煙の有無と一人平均残存歯数

総数	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし
30～34歳	356	1,293	10,084	37,065	28.33	28.67
35～44歳	889	3,213	24,367	90,429	27.41	28.14
45～54歳	901	3,422	22,558	90,945	25.04	26.58
55～64歳	1,131	5,604	24,405	132,217	21.58	23.59
65～74歳	919	7,328	16,317	147,932	17.76	20.19
75～84歳	273	5,986	3,335	94,936	12.22	15.86
85歳～	33	1,554	310	16,548	9.39	10.65
総計	4,502	28,400	101,376	610,072	22.52	21.48

* 性別及び喫煙の有無の不明は除く。

(2) 喫煙の有無と一人平均残存歯数（男女別）

表 35. 喫煙の有無と一人平均残存歯数（男性）

男性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし
30～34歳	254	372	7,245	10,653	28.52	28.64
35～44歳	645	1,048	17,832	29,450	27.65	28.10
45～54歳	704	1,185	17,721	31,117	25.17	26.26
55～64歳	903	2,059	19,655	48,857	21.77	23.73
65～74歳	818	2,893	14,492	57,942	17.72	20.03
75～84歳	241	2,396	2,951	39,377	12.24	16.43
85歳～	31	587	308	7,094	9.94	12.09
総計	3,596	10,540	80,204	224,490	22.30	21.30

表 36. 喫煙の有無と一人平均残存歯数（女性）

女性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし	喫煙あり	喫煙なし
30～34歳	102	921	2,839	26,412	27.83	28.68
35～44歳	244	2,165	6,535	60,979	26.78	28.17
45～54歳	197	2,237	4,837	59,828	24.55	26.74
55～64歳	228	3,545	4,750	83,360	20.83	23.51
65～74歳	101	4,435	1,825	89,990	18.07	20.29
75～84歳	32	3,590	384	55,559	12.00	15.48
85歳～	2	967	2	9,454	1.00	9.78
総計	906	17,860	21,172	385,582	23.37	21.59

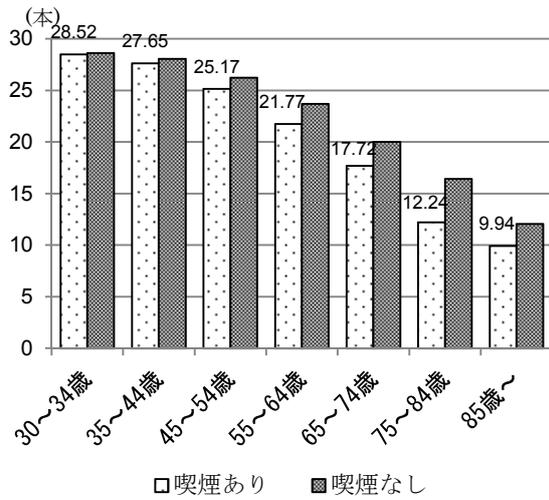


図 29. 喫煙の有無と一人平均残存歯数(男性)

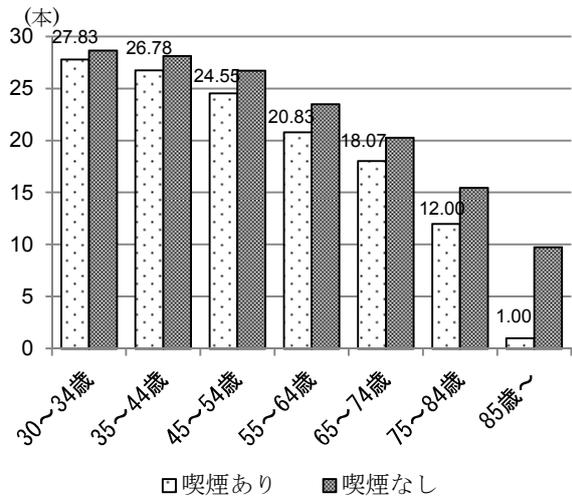


図 30. 喫煙の有無と一人平均残存歯数(女性)

男女とも全ての年齢層で「喫煙あり」の方が残存歯数は少ない。
 年齢が上がるにつれて喫煙の有無による残存歯数の差は大きくなり、男性は 3.6 本、女性は 4.2 本、喫煙者の方で残存歯が少ない。また 75~84 歳で最も差が大きい。

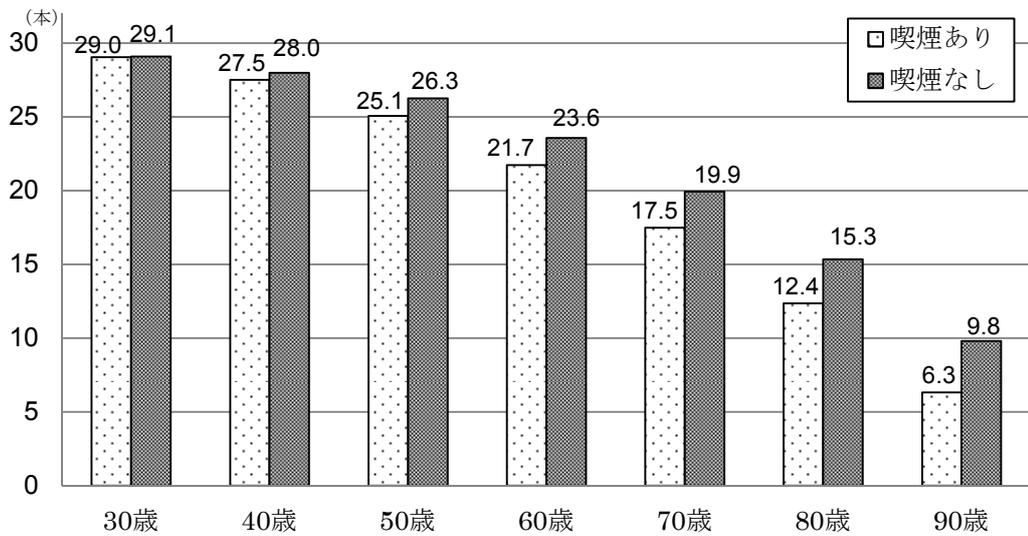


図 31. 年齢別喫煙有無の平均残存歯数 (男性・糖尿病なし・予測値)

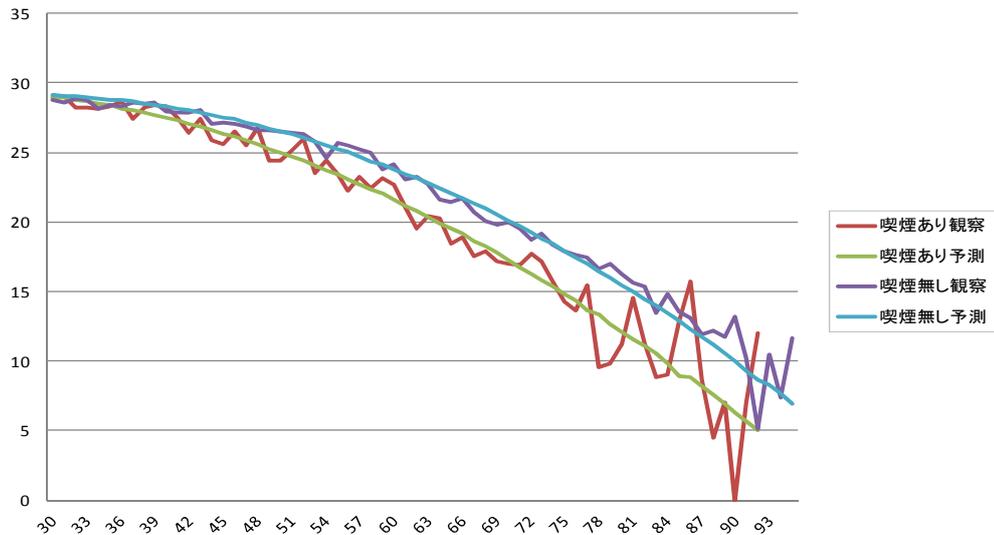


図 32. 喫煙の有無別年齢平均残存歯数（男性・糖尿病なし・観察地及び予測値）

男性のみを更に分析をすると、糖尿病による影響を除くため糖尿病なしで喫煙の有無による残存歯数について、予測値は50代で1.9本、70代で3.2本、80代で3.7本、喫煙ありの人が残存歯数が少なかった。

また、実際の調査結果と比べると、サンプル数の大小により残存歯数のばらつきはあるものの、傾向（グラフの傾き）は予測値と観測値では同じ傾向であった。

結果、喫煙は残存歯数に影響し、しかも年齢を追うごとに差が出てくるため、できるだけ早い段階での禁煙指導が残存歯数の向上に寄与すると言える。

6) 喫煙と歯周疾患（歯周ポケット測定値 4mm 以上）との関係

(1) 喫煙の有無と歯周疾患

表 37. 喫煙の有無と歯周疾患

総数	喫煙あり		喫煙なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳	151	201	705	502	1,559
35～44歳	303	577	1,553	1,574	4,007
45～54歳	237	658	1,304	2,098	4,297
55～64歳	254	839	1,806	3,726	6,625
65～74歳	201	656	2,087	4,981	7,925
75～84歳	52	169	1,558	3,802	5,581
85歳～	6	17	302	731	1,056
総計	1,204	3,117	9,315	17,414	31,050

* 性別及び喫煙の有無、歯周ポケットの状況の不明、対象歯なしは除く。

(2) 喫煙の有無と歯周疾患（男女別）

表 38. 喫煙の有無と歯周疾患（男性）

男性	喫煙あり		喫煙なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳	103	149	198	169	619
35～44歳	216	424	434	606	1680
45～54歳	183	516	386	787	1872
55～64歳	199	671	660	1,364	2894
65～74歳	176	585	742	2,015	3518
75～84歳	44	150	570	1,587	2351
85歳～	6	16	116	321	459
総計	927	2,511	3,106	6,849	13,393

表 39. 喫煙の有無と歯周疾患（女性）

女性	喫煙あり		喫煙なし		計
	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	
30～34歳	48	52	507	333	940
35～44歳	87	153	1,119	968	2327
45～54歳	54	142	918	1,311	2425
55～64歳	55	168	1,146	2,362	3731
65～74歳	25	71	1,345	2,966	4407
75～84歳	8	19	988	2,215	3230
85歳～		1	186	410	597
総計	277	606	6,209	10,565	17,657

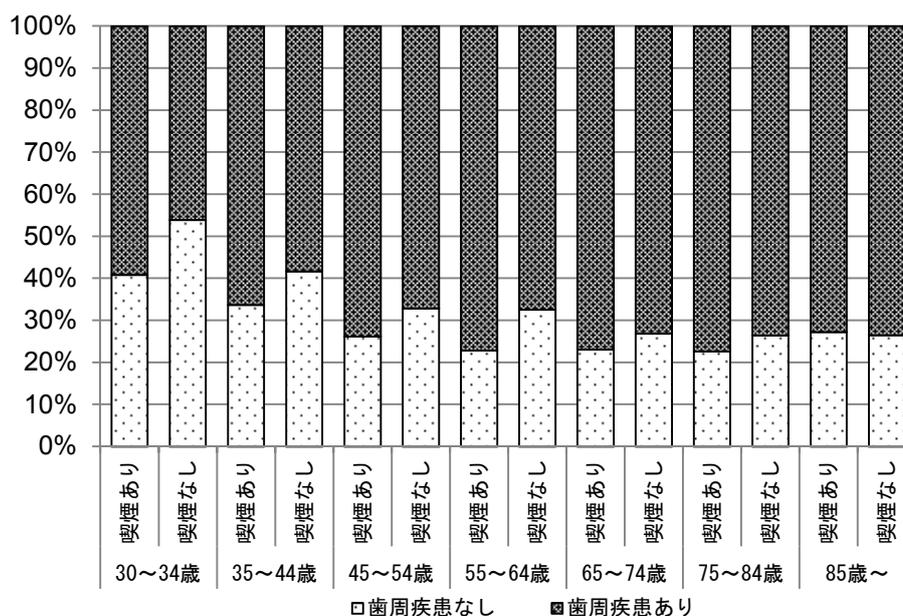


図 33. 喫煙の有無と歯周疾患（男性）

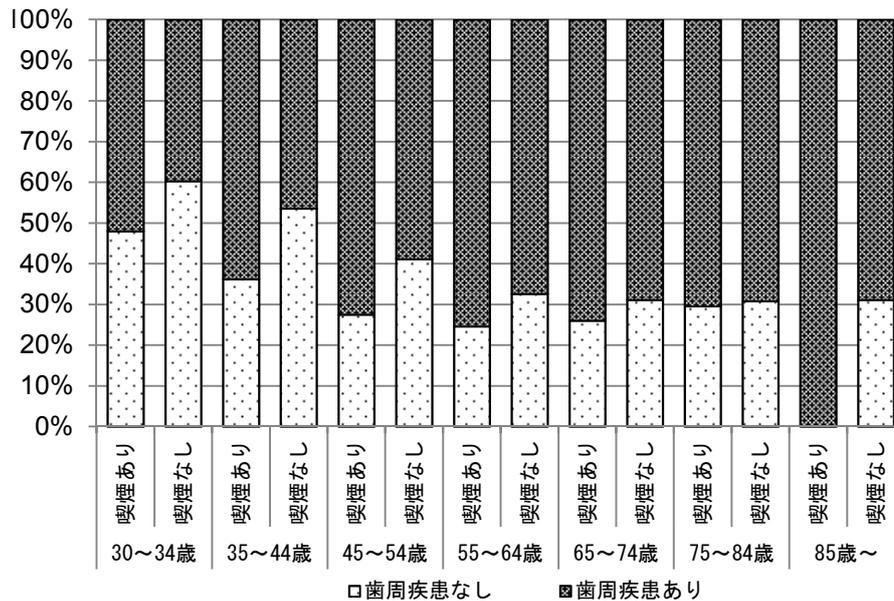


図 34. 喫煙の有無と歯周疾患（女性）

男女とも全ての年齢層で喫煙ありの人が歯周疾患にかかっている割合が高い。

したがって、喫煙は歯周疾患のリスクファクターとなり、喫煙による歯周疾患の増悪、そして残存歯数の減少へと関係していると考えられる。

7) 咀嚼について（咀嚼の状態・臼歯部の咬合状態・義歯の使用等）

(1) 残存歯数と咀嚼

表 40. 残存歯数と咀嚼

総数	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	噛める	噛めない	噛める	噛めない	噛める	噛めない
30～34歳	1,501	21	42,902	566	28.58	26.95
35～44歳	3,844	102	107,812	2,490	28.05	24.41
45～54歳	3,993	309	106,371	6,525	26.64	21.12
55～64歳	5,901	767	141,688	13,281	24.01	17.32
65～74歳	6,920	1,271	144,592	18,467	20.89	14.53
75～84歳	4,825	1,408	82,820	15,038	17.16	10.68
85歳～	1,071	506	13,256	3,522	12.38	6.96
総計	28,055	4,384	639,441	59,889	22.79	13.66

* 性別及び咀嚼の状況の不明は除く。

(2) 残存歯数と咀嚼（男女別）

表 41. 残存歯数と咀嚼（男性）

男性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	噛める	噛めない	噛める	噛めない	噛める	噛めない
30～34歳	609	10	17,435	256	28.63	25.60
35～44歳	1,629	51	45,662	1,246	28.03	24.43
45～54歳	1,713	168	45,228	3,376	26.40	20.10
55～64歳	2,589	355	62,051	6,020	23.97	16.96
65～74歳	3,090	589	63,514	8,219	20.55	13.95
75～84歳	2,061	563	36,036	6,127	17.48	10.88
85歳～	435	175	5,858	1,463	13.47	8.36
総計	12,126	1,911	275,784	26,707	22.74	13.98

表 42. 残存歯数と咀嚼（女性）

女性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	噛める	噛めない	噛める	噛めない	噛める	噛めない
30～34歳	892	11	25,467	310	28.55	28.18
35～44歳	2,215	51	62,150	1,244	28.06	24.39
45～54歳	2,280	141	61,143	3,149	26.82	22.33
55～64歳	3,312	412	79,637	7,261	24.04	17.62
65～74歳	3,830	682	81,078	10,248	21.17	15.03
75～84歳	2,764	845	46,784	8,911	16.93	10.55
85歳～	636	331	7,398	2,059	11.63	6.22
総計	15,929	2,473	363,657	33,182	22.83	13.42

30～34歳の区分において噛める人と比較して噛めない人の一人平均残存歯数は、1.63本減少している。噛めない人一人平均残存歯数を比較すると、男性では噛める人と比較して3.03本少ないが、女性の一人平均残存歯数は噛める人と変わらない。

また、年代別で見ると、噛めない人の方が早期に歯の喪失が見られ、男性ですでに45～54歳の区分で一人平均残存歯が20.10本となっている。

加えて、男性の方が、噛めない群で歯の喪失スピードが速いことがグラフにも表れており、女性の噛めない群と比較して男性の噛めない群の方が歯の喪失が速い。

噛める群は一人平均残存歯数が22.79本であり、噛めない群は13.66本と大きな開きがある。

歯の本数の減少は咀嚼力の低下につながることを示されたとも言える。

また、噛める人は、噛めない人より一人平均残存歯が多く、数値目標となる8020には届いていないが、噛める群では7020が達成されている。高齢者になっても健康な歯の本数を確保することは、低栄養を予防するという観点からも重要であると考えられる。

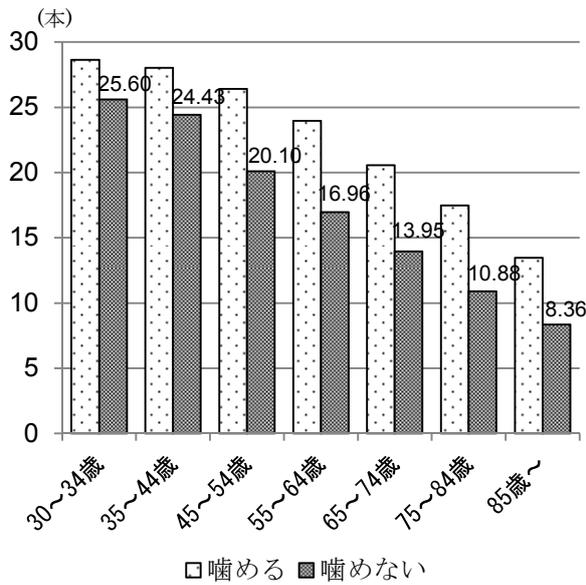


図 35. 残存歯数と咀嚼（男性）

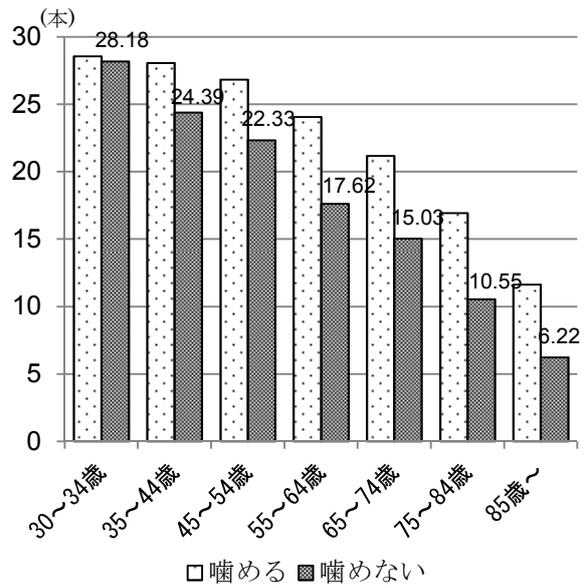


図 36. 残存歯数と咀嚼（女性）

(3) 歯周疾患と咀嚼について

表 43. 歯周疾患と咀嚼の有無について（男女別）

		人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
		歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり
総数	噛める	9,444	17,603	229,186	405,134	24.27	23.02
	噛めない	892	2,831	12,925	44,809	14.49	15.83
男性	噛める	3,666	8,012	88,853	184,742	24.24	23.06
	噛めない	320	1,321	4,521	21,277	14.13	16.11
女性	噛める	5,778	9,591	140,333	220,392	24.29	22.98
	噛めない	572	1,510	8,404	23,532	14.69	15.58

※不明は除く。

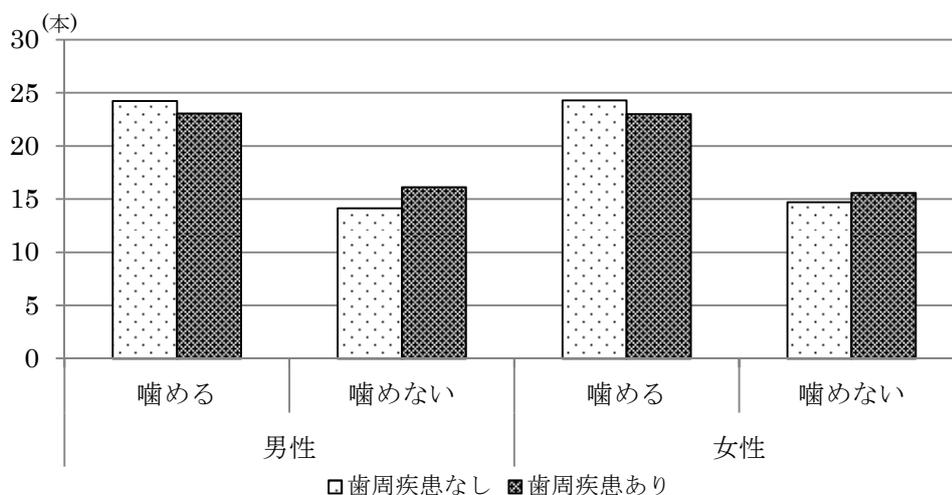


図 37. 歯周疾患と咀嚼の有無について (男女別)

歯周疾患と咀嚼の有無について、噛める人は歯周疾患ありの人が多かった。男女別にみても同様な結果であった。しかし、噛めない人の総数ならびに男女別に結果は、歯周疾患ありの人の方が多かった。

一方、一人平均残存歯数の結果では、噛める人で歯周疾患なしの人の方で一人平均残存歯数が約1本多かった。

平成22年度調査結果では、歯肉に所見のある人は15～19歳の年齢階級で既に69.1%と7割近い数値であり、その後の年齢階級においては7割～8割(80～84歳と85歳以上を除く)が有所見者である。今回調査で歯周疾患ありの人の方が多かったことと似た結果を示している。そのため、「噛める」のか「噛めない」のかを振り分けた場合、「歯周疾患あり」と答えていても、その程度に幅があり、軽度な者であれば「噛める」と答えている可能性が高いことも考えられる。

(4) 義歯の有無と咀嚼 (20本未満の者・男女別)

表 44. 義歯の有無と咀嚼 (20本未満の者・男女別)

		人数		割合	
		噛める	噛めない	噛める	噛めない
総数	義歯あり	6,101	2,640	69.8	30.2
	義歯なし	500	440	53.2	46.8
男性	義歯あり	2,664	1,100	70.8	29.2
	義歯なし	217	194	52.8	47.2
女性	義歯あり	3,437	1,540	69.1	30.9
	義歯なし	283	246	53.5	46.5

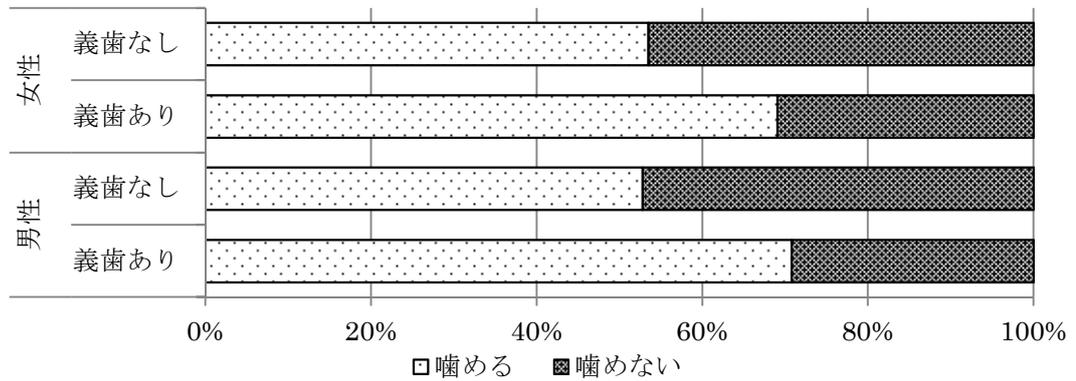


図 38. 義歯の有無と咀嚼 (20本未満の者・男女別)

男女とも義歯装着ありの人で噛める人の割合が7割と高く、義歯装着なしの人は約半数が噛めないと回答していることから、義歯は咀嚼機能を回復する重要な手段であることが伺える。

(5) 義歯の有無と咀嚼 (10本未満の者・男女別)

表 45. 義歯の有無と咀嚼 (10本未満の者・男女別)

		人数		割合	
		噛める	噛めない	噛める	噛めない
総数	義歯あり	2,610	1,538	62.9	37.1
	義歯なし	50	113	30.7	69.3
男性	義歯あり	1,198	661	64.4	35.6
	義歯なし	23	52	30.7	69.3
女性	義歯あり	1,412	877	61.7	38.3
	義歯なし	27	61	30.7	69.3

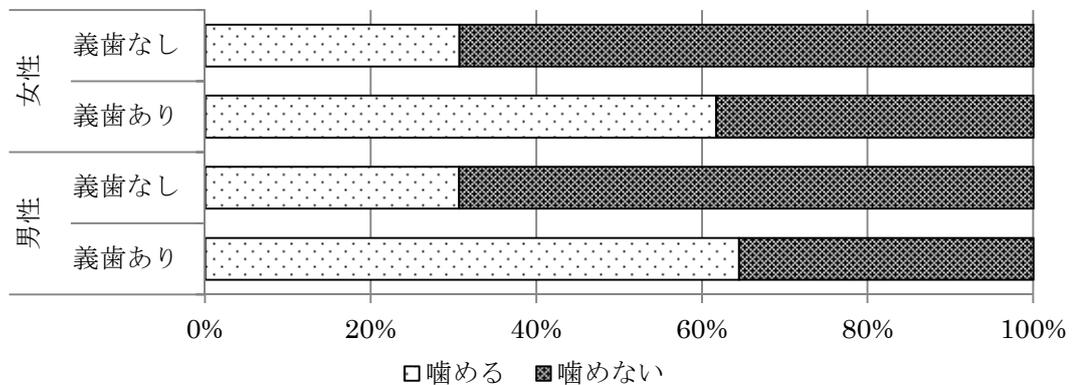


図 39. 義歯の有無と咀嚼 (10本未満の者・男女別)

義歯装着ありの人は、「義歯の有無と咀嚼」の結果と同様に6割以上が噛めると回答しているのに対し、義歯装着なしの人は、噛めない者が7割近くになっている。

10歯未満の少数歯になると、より義歯の咀嚼回復に寄与する役割が大きいことが伺える。

また、10歯未満の状態になると義歯装着ありの人の中でも噛めないとの回答が増えていることから、義歯の支持面積が増えるほど咀嚼能力の回復の限界があり、残存歯の負担能力そのものも低下している可能性も考えられる。

このことから、10歯未満にならないように健康な残存歯の確保をすることが、咀嚼能力の維持し低栄養にならないように食事摂取ができるボーダーラインであるとも考えられる。

8) 臼歯部の咬合（両側とも噛み合わせがある）状態との関係

(1) 臼歯部の咬合状態

表 46. 臼歯部の咬合状態

総数	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし
30～34歳	1,470	32	42,049	854	28.60	26.69
35～44歳	3,733	138	105,083	3,050	28.15	22.10
45～54歳	3,819	434	103,152	8,395	27.01	19.34
55～64歳	5,044	1,604	128,351	26,131	25.45	16.29
65～74歳	4,881	3,300	117,537	45,255	24.08	13.71
75～84歳	2,682	3,562	60,623	37,399	22.60	10.50
85歳～	396	1,184	7,639	9,152	19.29	7.73
総計	22,025	10,254	564,434	130,236	25.63	12.70

*性別及び臼歯部の不明は除く。

表 47. 臼歯部の咬合状態（男性）

男性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし
30～34歳	591	12	16,929	301	28.64	25.08
35～44歳	1,566	74	44,073	1,660	28.14	22.43
45～54歳	1,627	234	43,810	4,259	26.93	18.20
55～64歳	2,213	719	56,689	11,126	25.62	15.47
65～74歳	2,144	1,530	51,650	19,929	24.09	13.03
75～84歳	1,172	1,450	26,878	15,198	22.93	10.48
85歳～	174	437	3,574	3,762	20.54	8.61
総計	9,487	4,456	243,603	56,235	25.68	12.62

表 48. 臼歯部の咬合状態（女性）

女性	人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし	咬合あり	咬合なし
30～34歳	879	20	25,120	553	28.58	27.65
35～44歳	2,167	64	61,010	1,390	28.15	21.72
45～54歳	2,192	200	59,342	4,136	27.07	20.68
55～64歳	2,831	885	71,662	15,005	25.31	16.95
65～74歳	2,737	1,770	65,887	25,326	24.07	14.31
75～84歳	1,510	2,112	33,745	22,201	22.35	10.51
85歳～	222	747	4,065	5,390	18.31	7.22
総計	12,538	5,798	320,831	74,001	25.59	12.76

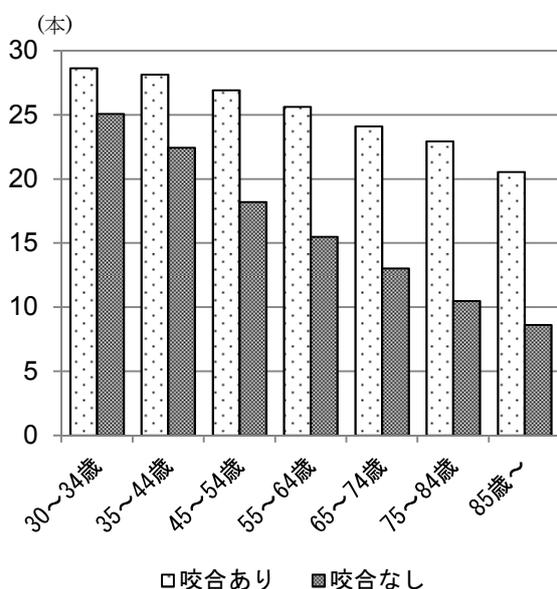


図 40. 臼歯部の咬合状態（男性）

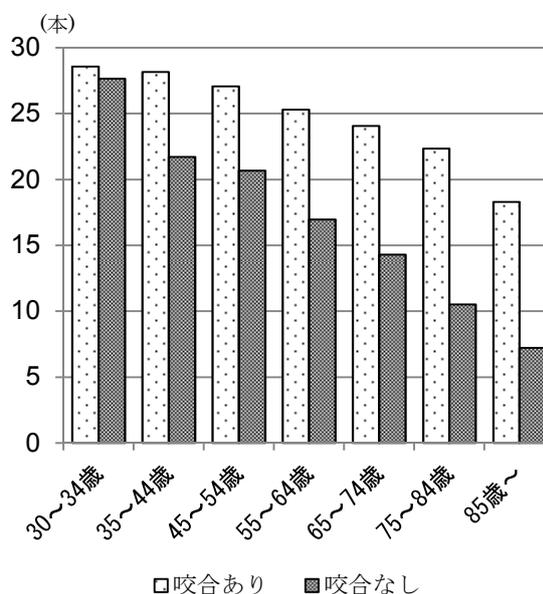


図 41. 臼歯部の咬合状態（女性）

臼歯部の咬合状態なしの人は、歯の喪失スピードが速く、年齢を重ねるごとに差が大きくなる。男性では既に45～54歳で一人平均残存歯数20本を下回っている。女性も45～54歳の一人平均残存歯数は20本下回ってはないが、ほぼ20本である。

臼歯部の咬合状態なしの人は、85歳以上になると10本を下回っているのに対し、臼歯部の咬合状態ありの人は、20本前後の一人平均残存歯数となっている。

このことから、臼歯部の咬合状態があることにより、前歯部の歯の保護に寄与していると考えられ、臼歯部の咬合支持域を確保することにより歯の喪失リスクを大幅に軽減できると推察される。

(2) 臼歯部の咬合状態と咀嚼

表 49. 臼歯部の咬合状態と咀嚼

		人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
		咀嚼できる	咀嚼できない	咀嚼できる	咀嚼できない	咀嚼できる	咀嚼できない
総数	咬合あり	20,919	1,054	540,389	22,891	25.83	21.72
	咬合なし	6,889	3,310	92,640	36,618	13.45	11.06
男性	咬合あり	8,990	473	232,702	10,404	25.88	22.00
	咬合なし	3,013	1,427	39,924	16,081	13.25	11.27
女性	咬合あり	11,929	581	307,687	12,487	25.79	21.49
	咬合なし	3,876	1,883	52,716	20,537	13.60	10.91

*性別及び臼歯部、咀嚼の状況の不明は除く。

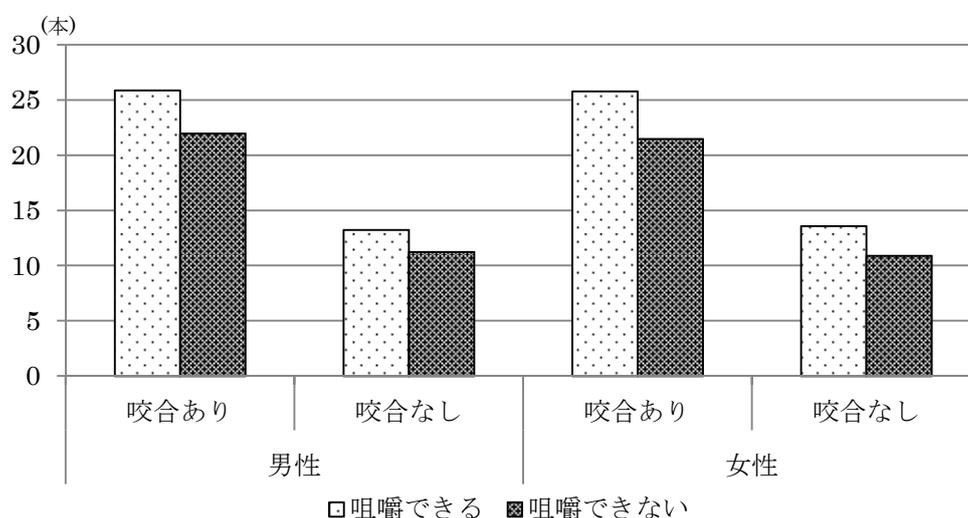


図 42. 臼歯部の咬合状態と咀嚼

臼歯部の咬合状態別の一人平均残存歯数をみると、臼歯部の咬合なしの人の方が、一人平均残存歯数は明らかに少ない。

また、臼歯部の咬合ありの人は、咀嚼できると回答した人が 95.2%を占め、咀嚼には臼歯部の咬合状態が大きく関係していると考えられる。

(3) 臼歯部の咬合状態と歯周疾患（ポケット測定値 4mm 以上）

表 50. 臼歯部の咬合状態と歯周疾患（ポケット測定値 4mm 以上）

		人数		残存歯数		一人平均残存歯数	
		歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり	歯周疾患なし	歯周疾患あり
総数	咬合あり	7,867	13,937	208,247	352,904	26.47	25.32
	咬合なし	2,436	6,354	32,988	92,985	13.54	14.63
男性	咬合あり	3,053	6,346	80,861	161,274	26.49	25.41
	咬合なし	923	2,899	12,240	42,287	13.26	14.59
女性	咬合あり	4,814	7,591	127,386	191,630	26.46	25.24
	咬合なし	1,513	3,455	20,748	50,698	13.71	14.67

*性別及び臼歯部、歯周ポケットの状況の不明は除く

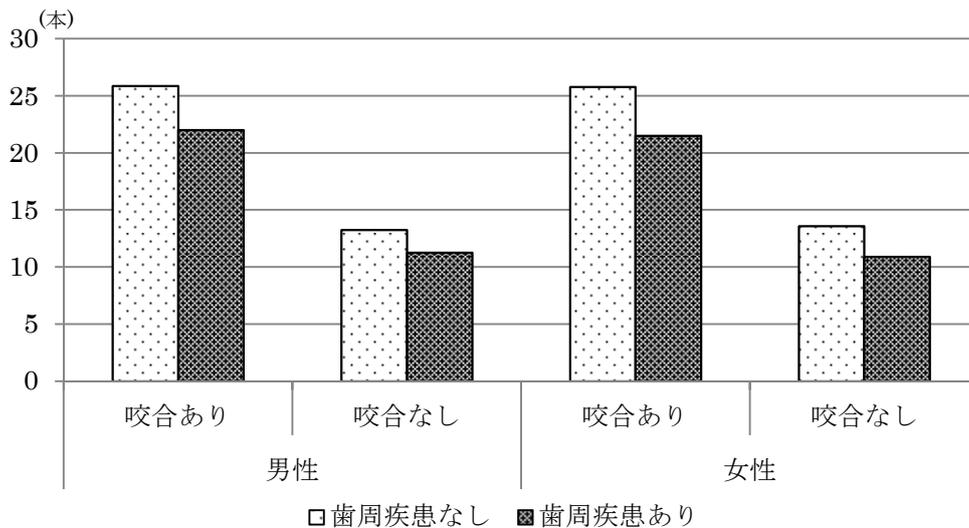


図 43. 臼歯部の咬合状態と歯周疾患（ポケット測定値 4mm 以上）

臼歯部の咬合状態ありの人で、歯周疾患ありの人は、歯周疾患なしの人と比較して男女とも 1 本程度一人平均残存歯数が少ない傾向であった。

一方で、臼歯部の咬合状態なしの人では、この傾向は逆転し、歯周疾患ありの人となしの人と比較して一人平均残存歯数が 1 本多い傾向であった。